



ふあい 水い 広場



鎌倉末期から南北朝期の間に鑄造されたと推定される「およりの鐘」は、現在の二荒町にあった東勝寺で突かれ、宇都宮の時の鐘として、その音は遠く一里四方にも及んだといわれています。

東勝寺が廃寺になり、鐘楼が宝蔵寺に移された後、空襲で焼け、鐘だけ放置されたままに。しかし、昭和61年に鐘楼が再建され、今では毎朝6時に、時を告げています。

ちなみに、「おより」の名は、身分の高い人が宇都宮入りした時に突いたため「お寄りになる」から命名されたなど諸説があります（昭和59年3月21日、市文化財に指定）。



およりの鐘

大通り4丁目 黒崎貞彦さん

文化財ウォッチング